

科目名 (英)	職業人教育 (Professionals Education)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	180 12	開講区分	前期
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	実習に向けて日誌の書き方、職場での振る舞い等を再度確認し、実際の指導案等の作成、ロールプレイを通して現場を知る。							
到達目標	指導案作成とロールプレイを通して、実習に対する自信をもつ。							
評価方法と基準	レポート課題 70% 授業内評価 30%							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	6/4	講義	キャリアセンターの講義		
2	6/11	講義	キャリアセンターの講義		
3	6/18	講義	キャリアセンターの講義		
4	6/25	講義	キャリアセンターの講義		
5	7/16	演習	指導案作成のチェック	指導案 3～5 歳児各 3 枚程度	
6	7/30	演習	指導案ロールプレイ①	指導案 3～5 歳児各 3 枚程度	
7	8/6	演習	指導案ロールプレイ②	指導案 3～5 歳児各 3 枚程度	
8	8/20	演習	指導案ロールプレイ③	指導案 3～5 歳児各 3 枚程度	
9	8/27	演習	指導案ロールプレイ④	指導案 3～5 歳児各 3 枚程度	
10	9/3	演習	ロールプレイの反省とまとめ	指導案 3～5 歳児各 3 枚程度	
11	9/24	演習	実習日誌の確認・お礼状作成		
12	10/1	演習	お礼状の作成		
13	10/8	講義	日本人の人間関係①		
14	10/15	講義	日本人の人間関係②		
15	10/22	講義	日本人の人間関係③		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					
Hand-book of Life Style 他					

科目名 (英)	職業人教育 (Professionals Education)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	180 12	開講区分	後期
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	基本的な日本人の人間関係の関わり方より日本の社会構造と職場に行った時の人間関係を知る。							
到達目標	日本人の人間関係の関わり方を知り、保育所等の指導案をもとにしたロールプレイで自信をもつ。							
評価方法と基準	レポート、ロールプレイ 70% 授業内評価 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/29	講義	日本人の人間関係④	学習内容を理解する
2	11/5	講義	日本人の人間関係⑤	学習内容を理解する
3	12/3	講義	日本人の人間関係⑥	学習内容を理解する
4	12/10	講義	日本人の人間関係⑦	学習内容を理解する
5	12/17	講義	日本人の人間関係⑧	学習内容を理解する
6	1/7	演習	指導案ロールプレイ①	学習内容を理解する
7	1/7	演習	指導案ロールプレイ②	学習内容を理解する
8	1/14	演習	指導案ロールプレイ③	学習内容を理解する
9	1/18	演習	指導案ロールプレイ④	学習内容を理解する
10	1/21	演習	実習中のまとめ①	学習内容を理解する
11	1/25	演習	実習中のまとめ②	学習内容を理解する
12	1/28	演習	実習中のまとめ③	学習内容を理解する
13	2/1	演習	実習中のまとめ④	学習内容を理解する
14	2/4	演習	実習中のまとめ⑤	学習内容を理解する
15	2/4	演習	実習中のまとめ⑥	学習内容を理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ Hand-book of Life Style 他				

科目名 (英)	保育・教職実践演習 (Professionals Education)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	実際の指導案等の作成、ロールプレイを通して現場を知る。							
到達目標	指導案作成とロールプレイを通して、実習に対する自信をもつ。							
評価方法と基準	レポート課題 70% 授業内評価 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	6/12	演習	幼稚園実習の事前準備、指導案の確認	指導案の作成
2	6/19	演習	幼稚園実習指導案のロールプレイ	指導案の作成
3	6/26	演習	保育所実習の事前準備、指導案の確認	指導案の作成
4	7/17	演習	保育所実習指導案のロールプレイ	指導案の作成
5	7/31	演習	3年次の各実習の振り返りと今後の課題	指導案の作成
6	10/26	演習	まとめ作成	指導案の作成
7	12/7	演習	まとめ作成	指導案の作成
8	12/14	演習	まとめの発表会と今後の課題の確認	指導案の作成
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	青年心理学 (Psychology of Adolescence)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	江崎 浩明
学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 月曜
教員の略歴	大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。						
授業の学習内容	青年期に至るまでの、乳児期・幼児前期・幼児後期・児童期の各発達段階や発達課題を学び、それらが青年期のアイデンティティ形成にどのような影響を与えるのかについて学びます。また、青年期特有の認知・思考・道徳的観念・周囲への過反応・自意識過剰といった物事の捉え方の変化や、身体像や性役割の多様性の理解、家族・友人関係の変化など、自分と自分を取り巻く環境との関係性の変化について学びます。急激な自身と環境の変化に対する不適応や、疾患レベルの反応についても考察します。						
到達目標	人間の発達過程において非常に不安定かつ変化に富む時期である青年期特有の心の動きについて、それまでの乳幼児期・児童期の発達と、青年期特有の発達の双方から理解する。これらの理解から、1)自分自身の思考や物事の捉え方の変化に対する抵抗感・不全感を低減させ、早急に自分を決め付けずに成功と失敗を繰り返しながら自分を模索してよい、という感覚を養えるようになること。2)他者は自分とは異なる模索の途上にいることを理解し、正解・不正解の視点で捉えることなく、その模索自体に敬意を払えるようになること。						
評価方法と基準	1. 定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月11日	オンライン講義	エリクソンの発達理論・各発達課題の概論を理解する。	自分の周りの各年代の人(祖父母・親・兄弟・隣人等)が現在直面している問題について考えてお
2	5月18日	オンライン講義	青年期に至るまで(乳児期・幼児前期・幼児後期・児童期)の特徴を理解する。	自分自身のこれまでの(幼稚園・保育所、小学
3	5月25日	オンライン講義	青年期特有の認知・思考法・道徳的観念・周囲への過反応・自意識について理解する。	校、中学校、高等学校)人間関係について考えて他者の考えや行動で、おかしい・許せない、と思うことについて考えておく。
4	6月1日	オンライン講義	青年期の身体変化や性役割について理解する。	自分の身体変化に気づいた時とその時の感情、困りごとについて思い出しておく。
5	6月15日	オンライン講義	青年期の家族・友人関係の特徴について理解する。	自分と家族との心理的距離の変化について考えておく。
6	7月13日	オンライン講義	青年期の社会不適応について理解する。	自分や自分の周りで起こっていた不登校やひきこもりについて思い出しておく。
7	7月27日	オンライン講義	青年期に発症することが多い精神障害について理解する。	自分の周りにいた「変な人」、「おかしな人」と思ってきた人について考えておく。
8	8月24日	オンライン講義	青年期のアイデンティティとモラトリアムについて理解する。	自分を支える心理的柱について考えておく。
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる青年心理学 [第2版] 白井利明 編 ミネルヴァ書房				

科目名 (英)	青年心理学 (Adolescence Psychology)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	江崎 浩明
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。						
授業の学習内容	青年期にかけて形成されるアイデンティティや将来を模索する猶予期間であるモラトリアムについて、自身のこれまでの人生や統計的側面から考察する。また、将来的な仕事に対する職業満足度であるやりがいや、人生に対する満足度に関する生きがいについて考え、それらが個々人で違うことを学びます。ストレスとは何か、なくなることの無いストレスとどのように付合っていくか・やられずに適応的に生きていくかについて、ストレスマネジメントの知識やスキルについて学びます。積極的傾聴スキルを実際に演習形式で体感します。						
到達目標	自分が何者であるか、なりたい自分像を徐々に見出し、その実現に向けて試行錯誤する時期であることを自認できるようになること。自分がどのような事に対してやりがいを見出し、どのような時間の過ごし方をすれば幸福感が増すのかについて考え、その実現の為に必要な事を実践できるようになる。自分や自分の大事・大切な人に対して援助的にかかわるために必要な積極的傾聴の基礎的スキルを身につける。						
評価方法と基準	1. 定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義	青年期特有の認知・思考について理解する。	青年期になって考え・捉え方が変わってきた事について考えておく			
2		講義	青年期の関する様々な統計的事実について理解する。	自分と友人の家庭での"当たり前"の違いについてを考えておく			
3		講義	職業における満足度・幸福度、仕事のやりがい、それらを実現する為の力点と継続可能性について理解	自分は仕事にどのような"やりがい"を求めるかや、これまでに何にやりがいを感じてきたかを考			
4		講義	人生における満足度・幸福度、いきがいについての個人差について理解する。	何をやっている時が幸福感が増すかを考えておく。			
5		講義	正解の無い問題に対する多様な視点の重要性について理解する。	自分では考えつかなかった考えや方法を知った時の事を思い出しておく。			
6		講義	ストレスとは何か、ストレスの種類と分類、溜まりやすい人の特徴について理解する。	自分にとってのストレスにはどのようなものがあるかについて考えておく。			
7		講義	ストレスに対する対処(コーピング)の種類と分類、実際の実施法について理解する。	嫌なことがあっても、これをやると気がまぎれる・良い気分転換になるということを考えてお			
8		演習	積極的傾聴スキルⅠ "聞く"ではなく、選択的注意を払って"聴く"ことの重要性について理解する。	誰かに相談したが、ちゃんと聴いてくれないと感じたときの事を思い出しておく。			
9		演習	積極的傾聴スキルⅡ 具体的な応答技法について演習を通して習得する。	周りの人(親・先生・先輩・同級生など)のアドバイスに振り回されたときの事を思い出してお			
10		演習	積極的傾聴スキルⅢ 本当に重たいケースについての対応法について理解する。	友人の相談にのっている時、何と声をかければよ			
11	/						
12	/						
13	/						
14	/						
15	/						
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。				
【使用教科書・教材・参考書】 □							
やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる青年心理学 [第2版] 白井利明 編 ミネルヴァ書房							

科目名 (英)	子どもの保健Ⅱ (Children's Health Ⅱ)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	粉川 妙子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	集中 曜日・時限
教員の略歴	助産師、保健師、看護師 宮城教育大学大学院学校教育専攻修士課程修了 養護教諭経験15年以上							
授業の学習内容	子どもの健康及び安全にかかわる保健活動の計画及び評価について学び、そして子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について考察する。さらに、子どもの疾病とその予防及び適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理等について具体的事例を基に学ぶ。加えて、現代社会における心の健康問題や地域保健活動等についても理解する。							
到達目標	主に乳児に焦点を当て、子どもの発育の時期に応じた育児に必要な知識や具体的な記述を習得する。子どもの健康増進のための基本的知識や援助、緊急時の応急処置を学ぶ							
評価方法と基準	定期試験60% レポート20% 授業内評価20%							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	9月1日	講義	乳児の抱き方 人形を使用し抱き方おんぶなどを学ぶ		学んだことを理解する
2	9月1日	講義	排泄 排泄の仕組みと観察の要点 オムツ替えを学ぶ		学んだことを理解する
3	9月1日	講義	衣服 衣服の選び方 着脱の方法		学んだことを理解する
4	9月1日	講義	沐浴実習にて沐浴の方法を学ぶ		学んだことを理解する
5	9月1日	講義	レポートを作成する		学んだことを理解する
6	9月2日	講義	事故防止 心肺蘇生法を学ぶ		学んだことを理解する
7	9月2日	講義	事故防止 レポートを作成する		学んだことを理解する
8	9月2日	講義	外傷 骨折 捻挫の手当 包帯法を学ぶ		学んだことを理解する
9	9月2日	講義	やけど 溺水 熱中症の手当 誤飲・中毒・窒息の対処法を学ぶ		学んだことを理解する
10	9月2日	講義	調乳 ミルクの作り方 調乳器具の消毒方法を学ぶ		学んだことを理解する
11					
12					
13					
14					
15					
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	保育事前事後指導 I (施設) (Childcare Training Pre-Post Guidance I Facility)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	3年	担当教員	前田有秀
学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1単位)	開講区分	集中
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚絅学院大学総合人間科学部子ども学科専任教員(保育実習指導歴6年)						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設実習をより良い経験とするため、実習の意義や基本姿勢、施設や利用児(者)への理解が深まるような実習行動及び実習日誌の書き方等について実践的に講義を展開し、実習準備を進めていく。 実習後は施設実習での学びをより深めるため、事後課題をまとめる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習の意義や目的を理解し、望ましい態度や心構えを身に付ける。 各施設の社会的役割、及び保育者の役割や専門性について理解する。 実習の総括と自己評価から、今後の実習に向けての課題を明確にする。 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 授業内評価 40% 課題(実習日誌・保育指導案等)の作成・提出・内容等 40% 実習事後レポート 20% 上記の各項目を総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8月1日	講義・演習	施設実習の意義・目的・内容について理解	テキストの該当する個所を予習すること
2	8月1日	講義・演習	各施設の種別の特徴を理解できる	テキストの該当する個所を予習すること
3	8月1日	講義・演習	種別の実習目標と業務内容を理解でき	自分が実習する施設の種別を調べること
4	8月1日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる	テキストの該当する個所を予習すること
5	8月1日	講義・演習	実習への準備と事後課題について理解	実習前の注意事項を確認しておくこと
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること	
【使用教科書・教材・参考書】 □ <ul style="list-style-type: none"> 守巧・小櫃智子編著『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社, 2014年 片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房, 2013年 『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・総務省, フレーベル社, 2018年 				

科目名 (英)	保育事前事後指導Ⅱ(保育所)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	3年	担当教員	前田有秀
	(Childcare Training Pre-Post Guidance Ⅱ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1単位)	開講区分	集中
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚絅学院大学総合人間科学部子ども学科専任教員(保育実習指導歴6年)						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱをより良い経験とするため、実習の意義や基本姿勢、実習日誌や指導案の望ましい書き方、設定保育における保育の進め方等が理解できるよう実践的に展開し、実習準備を進めていく。 ・実習後は保育実習Ⅱでの学びをより深めるため、事後課題をまとめる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅱの目標を達成するために必要な事前準備を整える。 ・保育士の役割と専門性を理解し、年齢に応じた保育の進め方を身に付ける。 ・実習の総括と自己評価から、保育士としての課題を明確にする。 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内評価 40% ・課題(実習日誌・保育指導案等)の作成・提出・内容等 40% ・実習事後レポート 20% 上記の各項目を総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	10月31日	講義・演習	保育所実習Ⅱの意義・目的・目標が理解で		テキストの該当する個所を予習すること
2	10月31日	講義・演習	全日実習について理解できる		テキストの該当する個所を予習すること
3	10月31日	講義・演習	中心活動について理解できる		中心活動の内容を考えておくこと
4	10月31日	講義・演習	保育指導案を理解し立案することがで		テキストの該当する個所を予習すること
5	10月31日	講義・演習	実習への準備と事後課題について理解		実習前の注意事項を確認しておくこと
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること		
【使用教科書・教材・参考書】 □ ・小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社, 2017年 ・片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房, 2013年 ・『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・総務省, フレーベル社, 2018年					

科目名 (英)	卒業制作 (Graduate Work)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	増永 那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年) ・認定こども園保育教諭(4年) ・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	・「産学連携」「地域貢献」をキーワードに、将来保育者として実践力を高められるような活動を通して、努力し、成果を発表する。							
到達目標	・3年間取り組んできた「産学連携教育」の集大成を発表することができる。 ・JESC発表会に向けて的確な資料作り、発表ができる。							
評価方法と基準	・授業内評価(70%) ・発表態度(30%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/12	オンライン講義	オリエンテーション	
2	5/19	オンライン講義	教育実習に向けた準備	指導案作成の準備
3	5/26	オンライン講義	教育実習に向けた準備	指導案作成の準備
4	6/2	オンライン講義	教育実習に向けた準備	指導案作成の準備
5	6/9	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
6	6/16	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
7	6/23	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
8	6/17	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
9	6/17	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
10	6/24	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
11	6/24	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
12	7/14	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
13	7/21	オンライン講義	オペレッタの準備ができる	表現力を高める努力をしておく
14	7/28	演習	オペレッタの準備・練習ができる	表現力を高める努力をしておく
15	7/28	演習	オペレッタの準備・練習ができる	表現力を高める努力をしておく
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	卒業制作 (Graduate Work)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	増永 那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年) ・認定こども園保育教諭(4年) ・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	・「産学連携」「地域貢献」をキーワードに、将来保育者として実践力を高められるような活動を通して、努力し、成果を発表する。							
到達目標	・3年間取り組んできた「産学連携教育」の集大成を発表することができる。 ・JESC発表会に向けて的確な資料作り、発表ができる。							
評価方法と基準	・授業内評価(70%) ・発表態度(30%)							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
16	8/4	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
17	8/4	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
18	8/18	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
19	8/18	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
20	9/23	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
21	9/23	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
22	9/30	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
23	9/30	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
24	10/7	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
25	10/7	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
26	10/14	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
27	10/14	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
28	10/21	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
29	10/21	演習	園でのオペレッタ披露に向けて練習し、表現力を高めることができる	反省・研鑽を繰り返す、協力して物事を進めることができる	
30	10/28	講義	2年次の資料を整理することができる		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	卒業制作 (Graduate Work)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	増永 那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年) ・認定こども園保育教諭(4年)・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	・「産学連携」「地域貢献」をキーワードに、将来保育者として実践力を高められるような活動を通して、努力し、成果を発表する。							
到達目標	・3年間取り組んできた「産学連携教育」の集大成を発表することができる。 ・JESC発表会に向けて的確な資料作り、発表ができる。							
評価方法と基準	・授業内評価(70%) ・発表態度(30%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
32	11/4	講義	資料をまとめることができる	
33	11/4	講義	資料をまとめることができる	
34	11/11	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
35	11/11	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
36	12/2	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
37	12/2	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
38	12/2	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
39	12/9	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
40	12/9	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
41	12/9	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
42	12/16	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
43	12/16	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
44	12/16	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	卒業制作 (Graduate Work)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	増永 那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年)・認定こども園保育教諭(4年)・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	・「産学連携」「地域貢献」をキーワードに、将来保育者として実践力を高められるような活動を通して、努力し、成果を発表する。							
到達目標	・3年間取り組んできた「産学連携教育」の集大成を発表することができる。 ・JESC発表会に向けて的確な資料作り、発表ができる。							
評価方法と基準	・授業内評価(70%) ・発表態度(30%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
45	1/13	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
46	1/13	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
47	1/13	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
48	1/20	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
49	1/20	演習	発表に向けてスライド制作をすることができる	必要な資料を準備しておく
50	1/20	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
51	1/27	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
52	1/27	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
53	1/27	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
54	2/3	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
55	2/3	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
56	2/3	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
57	2/10	演習	発表に向けて原稿や抄録作りができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
58	2/10	演習	発表準備をすることができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
59	2/10	演習	発表準備をすることができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
60	2/10	演習	発表準備をすることができる	必要な資料を準備し、発表練習をする
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ふれあい実習 (Friendship Training)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	増永那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時限	通年 (前期)
教員の略歴	・仙台市公立保育園保育士(2年) ・認定こども園保育教諭(4年) ・仙台医健・スポーツ&こども専門学校こども保育科専任教員							
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の学びを活かして、保育実習や教育実習に必要な準備物を理解し、制作する。 ・保育の引き出し(ピアノ、手遊び、絵本など)を増やし、現場ですぐ実践できるようになる。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の学びを活かして、保育実習や教育実習に必要な技術の習得を目標とする。 ・実習に向けて計画的に準備ができるようになる。 							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト・・・30% ・授業内評価・・・40% ・出席・・・30% 							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/13	講義	施設実習に向けて日誌を記入することができる	実習先施設にオリエンテーションの電話を入れる
2	5/20	講義	幼稚園実習に必要な教材を考えることができる	幼稚園実習に向けて必要な制作物を考えておく
3	5/27	講義	施設実習の日誌の書き方が分かる	
4	6/4	講義	日誌の用語の使い分けができるようになる	
5	6/11	講義	施設実習を終えて個別面談をし、振り返りができる	実習の反省と振り返りをしておく
6	6/18	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	幼稚園実習に向けて必要な制作物を考えておく
7	6/25	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	制作・指導案の準備
8	7/16	演習	幼稚園実習に必要な教材を制作できる	制作・指導案の準備
9	7/30	演習	作成した教材を使用した指導案作成・添削	指導案の作成
10	8/6	講義	作成した教材を使用した指導案作成・添削	指導案の作成
11	8/20	演習	教材を使用した部分実習の実践ができる	実習をイメージして部分実習に慣れておく
12	8/27	演習	教材を使用した部分実習の実践ができる	実習をイメージして部分実習に慣れておく
13	9/3	講義	幼稚園実習を終えて個別面談をし、振り返りができる	
14	9/24	講義	幼稚園実習を終えて個別面談をし、振り返りができる	
15	10/1	演習	実習で実践したピアノの弾き歌いの発表会ができる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ふれあい実習 (Friendship Training)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	前田有秀
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限	後期
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚綱学院大学総合人間科学部子ども学科専任教員(保育実習指導歴6年)						
授業の学習内容	①教育・保育実習に臨むにあたり必要な準備(保育に関する知識・技術・実践等)を整える。 ②保育実習・教育実習と密接に関連を持ちながら、教育・保育について総合的に理解する。 ③保育現場において実習生に必要とされる知識や技術を習得し、実習で活用できる力を身に付ける。 以上を踏まえ、本授業においては、保育実習Ⅱ(保育所)に向け、年齢ごとの実習日誌や保育指導案の書き方、保育演習技術(作成・演習等)、実習後の振り返りについて、保育現場レベルでの指導を行う。						
到達目標	①保育実習Ⅱの目標を達成するために必要な事前準備を整え、保育者の役割と専門性について具体的に理解する。 ②保育現場で求められる保育演習技術を習得する。 ③これまでの実習経験を踏まえ、保育に関して課題意識を持つ。						
評価方法及び基準	①授業内評価・振り返り等 40% ②課題(実習日誌・保育指導案・教材・まとめ等)の作成・提出・内容等 40% ③演習発表(実践・振り返り等) 20% 上記の各項目が50%以上、かつ総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	10月22日	演習	教材研究(紙皿シアターの制作①)	教材制作に必要な材料を準備すること	
2	10月22日	演習	教材研究(紙皿シアターの制作②)	教材を完成させ、演じ方を練習すること	
3	10月25日	演習	保育演習技術をまとめる(演習ノートの作成)	演習ノートを用意し、手遊び等をまとめること	
4	10月25日	演習	保育演習技術をまとめる(演習ノートの完成)	演習ノートを完成させ、練習しておくこと	
5	10月25日	演習	保育演習技術を発表する	仲間と共有した演習技術をまとめること	
6	10月25日	演習	中心活動を発表する	中心活動の保育指導案を完成させること	
7	10月25日	講義	実習前の準備と留意点	保育所実習Ⅱに必要な準備を整えること	
8	10月29日	演習	保育所実習Ⅱを振り返る(全日実習等)	部分実習の指導案について振り返る	
9	12月3日	演習	保育所実習Ⅱを振り返る(スライド作成①)	保育所実習Ⅱの学びをまとめること	
10	12月10日	演習	保育所実習Ⅱを振り返る(スライド作成②)	保育所実習Ⅱのスライドを完成させること	
11	12月17日	演習	保育所実習Ⅱを振り返る(スライド発表)	保育所実習Ⅱのスライドの発表練習をしておくこと	
12	1月14日	演習	実習経験を仲間と共有する(実習報告会発表練習)	発表練習を行い、全ての実習経験を振り返ること	
13	1月21日	演習	全実習を振り返る(グループディスカッション)	実習の反省や課題をまとめておくこと	
14	1月28日	演習	全実習のまとめをする(実習レポートの記入)	反省や課題を踏まえ実習レポートを完成させること	
15	1月30日	演習	実習経験を仲間と共有する(実習報告会)	実習での経験をまとめ、今後の目標を立てること	
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること		
【使用教科書・教材・参考書】 小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園 パーフェクトガイド』わかば社、2017年 『幼稚園教育要領(文部科学省)・保育所保育指針(厚生労働省)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(総務省)』フレーベル社、2018年 片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房、2013年					

科目名 (英)	保育ゼミ (Childcare Seminar)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	前田有秀
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚綱学院大学総合人間科学部子ども学科専任教員(保育実習指導歴6年)						
授業の学習内容	①教育・保育実習に臨むにあたり必要な準備(保育に関する知識・技術・実践等)を整える。 ②保育実習・教育実習と密接に関連しながら、教育・保育について総合的に理解する。 ③保育現場において実習生に必要とされる知識や技術を習得し、実習で活用できる実践力を身に付ける。 以上を踏まえ、本授業においては、施設実習および教育実習Ⅱ(幼稚園)に向け、各実習の意義と基本姿勢、年齢ごとの実習日誌や保育指導案の書き方、保育演習技術(作成・演習等)、実習後の振り返り等について、保育現場レベルでの指導を行う。						
到達目標	①施設実習・教育実習Ⅱの目標を達成するために必要な事前準備を整え、保育者の役割と専門性について具体的に理解する。 ②保育現場で求められる保育演習技術を習得する。 ③これまでの実習経験を踏まえ、保育に関して課題意識を持つ。						
評価方法と基準	①授業内評価・振り返り 40% ②課題(実習日誌・保育指導案・教材・まとめ等)の作成・提出・内容等 40% ③演習発表(実践・振り返り等) 20% 上記の各項目が50%以上、かつ総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月22日	オンライン講義	施設実習の実習内容を理解できる	教科書やプリントをノートにまとめること
2	5月29日	オンライン講義	施設の種別を理解できる	施設の特徴をまとめておくこと
3	6月5日	演習	実習施設を調べ、実習内容を理解できる	自身の実習先の内容を調べまとめること
4	6月12日	演習	さまざまな施設を理解することができる	他の種別についてまとめること
5	6月19日	演習	施設実習を振り返る(スライド作成①)	施設実習の学びをスライドにまとめること
6	6月20日	演習	施設実習を振り返る(スライド作成②)	施設実習Ⅰの学びのスライドを完成させること
7	6月20日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる①(幼稚園Ⅱ)	実習日誌の書き方を復習すること
8	6月20日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる②(幼稚園Ⅱ)	発達段階を踏まえて日誌を書けるようにすること
9	6月20日	講義・演習	研究保育の保育指導案を立案することができる	保育指導案を完成させ模擬保育の練習をすること
10	6月20日	演習	模擬保育を通して保育指導案を理解できる(研究)	模擬保育演習の準備・練習・振り返りをする
11	6月26日	講義・演習	実習前の準備を行うことができる	実習に必要な書類や教材の準備を整えること
12	7月17日	演習	教育実習Ⅱを振り返る(スライド作成①)	教育実習Ⅱの学びをスライドにまとめること
13	7月31日	演習	教育実習Ⅱを振り返る(スライド作成②)	教育実習Ⅱの学びのスライドを完成させること
14	9月4日	演習	教育実習Ⅱを振り返る(実習日誌から)	教育実習Ⅱの日誌の振り返りをする
15	9月11日	講義	保育所実習Ⅱの実習内容を理解する	教科書やプリントをノートにまとめること
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること	
【使用教科書・教材・参考書】 守巧・小櫃智子編著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社、2014年 『幼稚園教育要領(文部科学省)・保育所保育指針(厚生労働省)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(総務省)』フレーベル社、2018年 片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房、2013年				

科目名 (英)	各種特化科目 チャイルドケア (Child Care)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	笹氣 真歩
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	アタッチメント協会ベビーマッサージ・ヨガインストラクター、専門学校にてリミック指導歴15年						
授業の学習内容	3年間学んできたことを活かしつつ、0・1・2歳の保育内容の充実をはかる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児の発達を理解し、子どもに合わせたケアを提供できる。 ・自分で組み立てたカリキュラムをもとに、ティーチング発表することができる。 						
評価方法と基準	授業内評価(出席数・ティーチング実技演習含む)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月22日	講義・実技	タッチケアとは何か理解する	
2	5月29日	実技演習	ベビーマッサージの演習をする	学んだことを復習する
3	6月5日	実技演習	ベビーマッサージの演習をする	学んだことを復習する
4	6月12日	実技演習	乳幼児向けわらべうたをうたう	学んだことを復習する
5	6月19日	実技演習	こどもヨガとベビーサインについて学ぶ	学んだことを復習する
6	6月26日	実技演習	0～2歳の脳に良い遊びについて学ぶ	学んだことを復習する
7	7月17日	実技演習	乳幼児のモンテッソーリ教育について学ぶ	学んだことを復習する
8	7月31日	実技演習	モンテッソーリ教材をつくる	学んだことを復習する
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習			ティーチング発表に向け、制作物など準備学習あり、学んだことを復習する	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
適宜資料を配布する				

科目名 (英)	各種特化科目 幼児安全法 (Infant Safety Act)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	日本赤十字社
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	日本赤十字社より講師派遣							
授業の学習内容	幼児の救命救急やけがの手当て、予防法などを学び、支援新資格を取得する							
到達目標	・幼児の救命救急をの知識を身に付け、即戦力となる							
評価方法と基準	授業内評価(50%)、試験(50%)							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	12月7日	講義・演習	オリエンテーション		
2	12月14日	講義・演習	こどもに起こりやすい事故の予防と手当		
3	1月18日	講義・演習	年齢別事故の特徴		
4	1月25日	講義・演習	一次救命措置		
5	2月1日	講義・演習	こどもの病気と看病の仕方		
6	2月1日	講義・演習	こどもの病気と看病の仕方		
7	2月13日	講義・演習	幼児安全法支援員養成講習	幼児安全法支援員養成講習	
8	2月14日	講義・演習	幼児安全法支援員養成講習	幼児安全法支援員養成講習	
9	／				
10	／				
11	／				
12	／				
13	／				
14	／				
15	／				
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>					

科目名 (英)	各種特化科目 レクリエーション (Recreation)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	鈴木 裕也
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	忍者ナイン指導者(幼児体操教室)						
授業の学習内容	将来スポーツに携わる人材として、自分自身の体力の維持増進を目標とし、生涯を通じて継続的に、かつ協力的に運動を実践するための知識や態度を養うことによって、明るく豊かで、心身ともに健康な生活を営むための知識を実践交えて学ぶ。また、レクリエーションの概念を理解し、人とのコミュニケーションの取り方や初対面の人との関わり方などの基礎を体験を踏まえ学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイクとは何かを学ぶ。 ・ゲームプログラムの組み方を学ぶ。 ・スムーズにコミュニケーションを取るための言葉がけの仕方を学ぶ。 ・指導案の作成の仕方を学ぶ。 						
評価方法と基準	授業内評価(20%)、レポート(50%)、指導案(10%)、実技試験(20%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	6月8日	演習	オリエンテーションを通してレクリエーションとは何か理解する		
2	6月8日	演習	社会とレクリエーション運動の関係について学ぶ	配布資料の復習	
3	6月22日	演習	レクリエーションの理解と歴史について学ぶ	配布資料の復習	
4	6月22日	演習	レクリエーション支援の理論について学ぶ	配布資料の復習	
5	7月20日	演習	アイスブレイキングについて学ぶ	配布資料の復習	
6	7月20日	演習	アイスブレイキングについて学ぶ	配布資料の復習	
7	7月28日	演習	ニュースポーツについて学ぶ	配布資料の復習	
8	7月28日	演習	ニュースポーツについて学ぶ	配布資料の復習	
9	8月3日	演習	ニュースポーツについて学ぶ	配布資料の復習	
10	8月3日	演習	ニュースポーツについて学ぶ	配布資料の復習	
11	8月4日	演習	野外活動について学ぶ	配布資料の復習	
12	8月17日	演習	野外活動について学ぶ	配布資料の復習	
13	8月17日	演習	レクリエーションゲームの指導案を作成する	配布資料の復習	
14	8月31日	演習	レクリエーションゲームの指導案を作成する	配布資料の復習	
15	8月31日	演習	実技テスト	配布資料の復習	
準備学習 時間外学習			配布資料の復習		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>					
適宜資料を配布する					

科目名 (英)	各種特化科目 療育指導 (Nursing Leadership)	必修 選択	必修・選択必修 選択等	年次	3	担当教員	田中 公一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	東北福祉大学大学院修士課程修了。専門学校・短期大学で保育者養成の専任教員を務める。放課後等デイサービス事業所理事兼務。						
授業の学習内容	ノーマライゼーションからインクルージョンへと社会が変化している昨今において、障がいに対する合理的配慮は誰しものが心得ていなければならない。一方で、療育の分野は子どもの個々のニーズを的確に捉えて発達を支えていかなければならず、より専門的な知識と高い技術が必要とされる。障がいを有していても当たり前前に社会参加ができるよう、それを支える保育者としては、本講義の内容をしっかりと身に付けてほしい。なお、本授業は、社会福祉・障害児保育・保育方法・保育環境など、様々な分野と関連しあっており多角的な視点が要求される。よって、本授業ではアクティブラーニングを実施し、意見交換や議論を活発に行う授業を展開する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・療育や障がい児支援に関する法制度を理解し、その知識を保育現場や保護者支援に活用できる。 ・障がいについて学び、正しい合理的配慮の方法や個々に応じたコミュニケーションをとることができる。 ・療育や障がい児支援の専門的技術を獲得し、障がい児及びその保護者に対して適切な支援が実施できる。 						
評価方法と基準	定期試験60% レポート20% 授業内評価20%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	6月27日	講義	療育の意義や目的について説明できる		
2	6月27日	講義	療育の内容について説明できる		
3	6月27日	講義	療育を実践する社会資源について説明できる		
4	6月27日	講義	療育指導を実践する職員について説明できる		次回までに、講義1回目から4回目についてのレポートを作成しておくこと
5	8月22日	講義・演習	身体障がい児への療育が実践できる		
6	8月22日	講義・演習	知的障がい児への療育が実践できる		
7	8月22日	講義・演習	発達障がい児への療育が実践できる		
8	8月22日	講義・演習	病後児・医療的ケア児への療育が実践できる		次回までに、講義5回目から8回目についてのレポートを作成しておくこと
9	8月29日	講義	障がい児支援に関する法制度について説明できる		
10	8月29日	講義・演習	障がい児の保護者支援が実践できる		
11	8月29日	講義・演習	障がい児の兄弟児支援が実践できる		
12	8月29日	講義	障がい児に関係する地域福祉について説明できる		次回までに、講義9回目から12回目についてのレポートを作成しておくこと
13	9月5日	試験			
14	9月5日	講義・演習	一年間を振り返り、学習内容を文章で表現できる		
15	9月5日	講義・演習	学習内容を発表し、療育の重要性を述べることができる		
準備学習 時間外学習			各日程ごとにレポート準備するので、復習を兼ねて確認し、理解してから次回の講義に臨むこと。		
【使用教科書・教材・参考書】 □ 適宜、担当教員が準備する。					

科目名 (英)	各種特化科目 病児保育	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	粉川 妙子
	(Sick Childcare)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	助産師、保健師、看護師 宮城教育大学大学院学校教育専攻修士課程修了 養護教諭経験15年以上						
授業の学習内容	病児の理解と看護・保育について学ぶ。						
到達目標	病児保育について知り、病児にとって保育の重要性を理解することができる。 病児の特徴や小児期におこりやすい症状と看護について理解することができる。						
評価方法と基準	定期試験60% レポート20% 授業内評価20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/15	講義	病児保育の意義・理念について	配布プリントの通読
2	9/15	講義	あるべき病児保育のかたち	配布プリントの通読
3	9/15	講義	病児保育の遊びについて	配布プリントの通読
4	9/29	講義	病児保育における一日の流れ	配布プリントの通読
5	9/29	講義	病児保育の心理について	配布プリントの通読
6	9/29	講義	病児保育におけるコミュニケーション	配布プリントの通読
7	10/6	講義	感染予防について	配布プリントの通読
8	10/6	講義	代表的な子どもの病気を知ろう	配布プリントの通読
9	10/6	講義	基礎的な看病について	配布プリントの通読
10	10/13	講義	リスクマネジメントの基礎①	配布プリントの通読
11	10/13	講義	リスクマネジメントの基礎②	配布プリントの通読
12	10/13	講義	心配蘇生法、気道異物除去について	配布プリントの通読
13	10/20	講義	「いのちの教育」健康教育について	配布プリントの通読
14	10/20	講義	定期試験	
15	10/27	講義	振り返り、まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
認定病児保育 スペシャリスト試験公式テキスト				

科目名 (英)	各種特化科目 こどもイラスト法 (Child illustration method))	必修 選択	必修・選択 必修・選択等	年次	3	担当教員	佐久間 誉之
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	専門学校にてデザインを専攻、フリーランスイラストレーターとして活躍。						
授業の学習内容	絵を描くために必要は技術と基礎を理解する必要があります。鉛筆の持ち方、画材の使い方、定規の使い方、形の捉え方、動植物、人物の描き方などがあります。図画工作や造形表現の科目との関係性が深く相乗的な効果があります。幼稚園で楽しく笑顔で絵を描けるようになってもらうために、一人ひとりに寄り添い、理解しやすい内容まで描き方を噛み砕き授業を行います。						
到達目標	絵を描くために必要な基本的な要素(人、物、動植物、風景など)の習得する。 描く対象物をシンプルにとらえ、思い描くイメージを絵として落とし込む事が出来るよう制作実習を行う。 ①対象物をシンプルに捉え描くことができる。②植物(草木、花、野菜、果物)を描くことができる。③陸の生き物(動物、昆虫、人)を描くことができる。④食べ物(デザートや身近な食品)を描くことができる。⑤海の生き物を描くことができる。⑥思い描くグリーティングカードやストーリー性のある一枚の絵を描くことができる。						
評価方法と基準	課題イラスト						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	6月3日	講義と演習	絵を描く為に必要な知識と画材を把握できる。		
2	6月3日	講義と演習	(目標①) モノをシンプルに捉える事ができる。		描画復習
3	6月10日	講義と演習	(目標②) 植物をシンプルに捉える事ができる。		描画復習
4	6月10日	講義と演習	(目標②) 植物をテーマにした絵を描く事ができる。		描画復習
5	6月17日	講義と演習	(目標③) 動物や昆虫をシンプルに捉える事ができる。		描画復習
6	6月17日	講義と演習	(目標③) 動物や昆虫をテーマにした絵を描く事ができる。		描画復習
7	6月24日	講義と演習	(目標③) 人をシンプルに捉える事ができる。		描画復習
8	6月24日	講義と演習	(目標③) 人をテーマにした絵を描く事ができる。		描画復習
9	7月15日	講義と演習	(目標④) 食べ物をシンプルに捉える事ができる。		描画復習
10	7月15日	講義と演習	(目標④) 食べ物をテーマに絵を描く事ができる。		描画復習
11	7月22日	講義と演習	(目標⑤) 海の生物をシンプルな形で捉える事ができる		描画復習
12	7月22日	講義と演習	(目標⑤) 海の生物をテーマに絵を描く事ができる。		描画復習
13	7月29日	講義と演習	(目標⑥) 思い描くイメージを表現できる。		描画復習
14	7月29日	講義と演習	(目標⑥) 思い描くイメージを描く事ができる。		描画復習
15	8月5日	テスト	テスト用課題の制作。		
16	8月5日	講義	講評会		
準備学習 時間外学習			①～⑥の演習と復習。授業で覚えた技術を忘れないよう反復した復習を行います。		
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	資格取得科目 幼児体育指導 (Infant Physical Education)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	公益財団法人 日本幼少年体 育協会
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	公益財団法人日本幼少年体育協会講師						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対して、体育や運動あそびを「たのしく」「わかりやすく」「安全に」指導できる資格取得を目的とする ・幼児の発育発達の基礎知識と適切な運動指導を安全に行える資格を学ぶ 						
到達目標	幼児体育指導者検定2級を取得することができる						
評価方法と基準	資格取得目標						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義・演習	学科講習(発育発達論、幼児体育論、指導プログラム)	内容の復習、練習
2	9月26日	講義・演習	学科講習(発育発達論、幼児体育論、指導プログラム)	内容の復習、練習
3	9月26日	講義・演習	実技講習(マット、縄跳び、跳び箱)	内容の復習、練習
4	9月26日	講義・演習	実技講習(マット、縄跳び、跳び箱)	内容の復習、練習
5	9月27日	講義・演習	学科試験	内容の復習、練習
6	9月27日	講義・演習	実技講習(マット、縄跳び、跳び箱)	内容の復習、練習
7	9月27日	講義・演習	実技試験	内容の復習、練習
8	9月27日	講義・演習	実技試験	内容の復習、練習
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				